



おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビューの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士(MBA)、新潟郷土史研究会会員
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）
「郷土とことわざ」「ことわざを楽しく学ぼう、社会・文化・人生」（人間の科学新社・共著）
「明治大学政経論叢 2016年度（新潟美人）」
「明治大学政治経済研究所」等

「やうつり」

最初にお断りいたします。前回「ごつつお食べきり あったらもん」で、新潟の宴会の食べ残し防止の あったらもん（もったいない）事情の続報を今回お届けすると告知いたしました。しかし、これが意外や意外、調査に手間取り、しかもかめんどくっせことになりました。おまけに、宴会がらみのことばらしきものがでてきてしまいました。そこで速戦即決、今回はこちらをお届けいたします。

それは、「やうつり」ということば。「家移り」（屋移りとも）の表記でしょうか、「引越し」「転居」のことです。

A「あのしょ、家移りしなったな」

B「転勤らな」や、

A「今度、家移りしてきたしょ、どんげしょら？裏に住んで、まだ一度も顔見せねて」

B「どーお、何ていうしょら？」

A「表札も出てねえすけ、わからんて」

B「どーお、居るんだかね？」

A「夜になると、電気点いてっし、ゴンゴとモーターの音がするすけ、居るんだわね。やかまして、やかまして寝らんねて、ごうやけるて！」

B「どーお、どーいんだろね！」

と新潟弁の会話にするとよくお分かりの通り、「家移り」は新潟らしい語感で、新潟弁！と思われているふしがあります。

しかし、調べてみると、群馬、神奈川、山梨、静岡の関東圏でもみられることばです。隣県長野では、「やおつり」とウ音に変化した形で存在することから、大雑把にいうと本州の真ん中あたりのことばか？と思い調査の手を拡げていきました。すると、鹿児島地方を中心とした九州では「えなおり」で「家直り」

（イエのイが脱落した形）という語がみられ、もともと、引越しや新築した際、工事関係者を招いて開く酒宴を指した語ということがわかりました。静岡の浜松地方では、「家移り」が同様の祝いとして行われているようです。

またさらに、宮城の古いことばに、「やうづり」（ツ音がヅ音に濁音化）がみられ、こちらも本来は引越しの際の宴席であったことが判ってきました。

江戸時代には、「やうつりがゆ」といって、引越しの際の挨拶代わりに蕎麦ならぬ粥を振る舞う習慣があったともいいます。諸説ありますが、多忙な引越しの後ゆえ、手軽なもてなし食が粥であったのか？蕎麦好きな江戸っ子は、粥を蕎麦に、それも末永くよろしくの意で長ものにしたのか？と色々想像は広がります。なお、上方には引越し蕎麦の風習はなかったといえます。

古語で「わたまし」（渡座・移徒）といって、貴人の転居を指すことばがありますが、家神さまを移すための祭礼・宴を催したことが、「やうつり」の基ともいわれます。近年、引越し蕎麦は、転居先で住人が食すものと捉える者もいるようですが、本来は近隣への挨拶と気配りが「やうつり」でした。

ところで、「やうつり」したら蕎麦も粥も宴も要らぬ、百歩譲って挨拶無しもまあ許すから、表札だけは出しておいてよ

ね、×××さんということが近年あるようです。



注：なお、引越しにまつわる語や慣わしには諸説あります。